

はじめての生成AI 【Level100】

生成AIの利用を検討するために 知っておきたいこと



 brains ブレインズテクノロジー株式会社

Neuron 
Enterprise Search

本セミナーの位置付け

生成AIの利用をお考えの方に向けた
3ステップのシリーズセミナーです



本セミナーの目的

社内情報検索で生成AIの利用を検討するために必要な基礎知識を習得する。
自然言語処理に関連する内容を想定しています。
(画像や音声については扱いません)

【想定している参加者】

- ・ 初めて生成AIの利用を検討される方
- ・ NeuronESの生成AI連携機能に興味がある方
- ・ AIチャットボットの導入をお考えの方



生成AIの利用について社内で議論できるようになる



本日の内容

生成AIの技術動向

🔄めくる

大規模言語モデル
の基礎知識

🔄めくる

大規模言語モデル
のリスクと対策

🔄めくる

生成AIの活用状況

🔄めくる

セッション終了後にmiroボード上でご質問をお受けします

学習データをもとに、文章・画像・動画・音声など、新たなデータを生成するAI技術(人工知能)のこと



2022年11月 OpenAIがChatGPTを発表
ビジネスシーンでも多くの注目を集めている

3ステップのシリーズセミナーのゴール

例) 工場で発生した火災事故を今後起こさないための対策を調べてください

Neuron ESの場合



「工場 事故」で検索 → チャット画面を起動して、質問する

Chat EIの場合



チャット画面で質問 → 回答確認



社内情報で回答が作られる仕組みを説明できるようになる

大規模言語モデル(LLM: Large Language Models)は、生成AIの一種であり、特に自然言語処理(NLP)に特化した技術。「Transformer」というニューラルネットワークの技術を使っていないLLMはないと言われている。

- 2017年 Googleの研究者らがTransformerを提案
Transformerは、それ以前に主流だったRNNやCNNモデルよりも高速かつ高精度であり、自然言語処理やその他AI分野に革命的な進歩をもたらしたと言われている。その発展型としてBERTやGPTなど多くのモデルが登場し、現在もAI技術の基盤として広く活用されている。

AIの中のディープラーニング (深層学習)

- AI(人工知能)とは、知的なコンピュータプログラムを作る科学と技術である
- AI技術の一つであるディープラーニング(深層学習)とは、人間が自然に行うタスクをコンピュータに学習させる機械学習の手法の一つである

AIの用語の包含関係



出典: 人工知能学会資料委員会(2019)作成
<https://www.aist.go.jp/aiist/research/llm/gnews035.html>

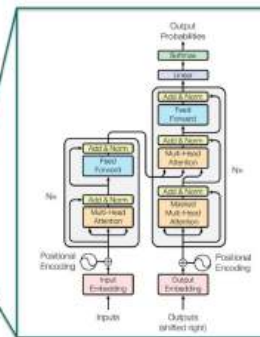
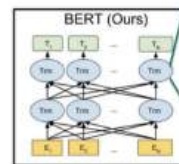
OMATSU LAB. THE UNIVERSITY OF TOKYO

鍵となる技術: トランスフォーマー(L. Kaiser et al., 2017)

- 有名な「Attention is All You Need」論文。Googleの研究者ら。
- 「アテンション」という機構を大規模に使ったトランスフォーマーを提案。
 - アテンション (自己注意機構) : ニューラルネットワーク中のどこかの情報をどのように使うか自体を学習することができる。
 - トランスフォーマーは、マルチヘッドのセルフアテンションを多層に重ねたもの。
 - 多くのタスクでSOTA (最新性能) を出した。

次の単語を予測するという、「自己教師あり学習」で事前に学習する。

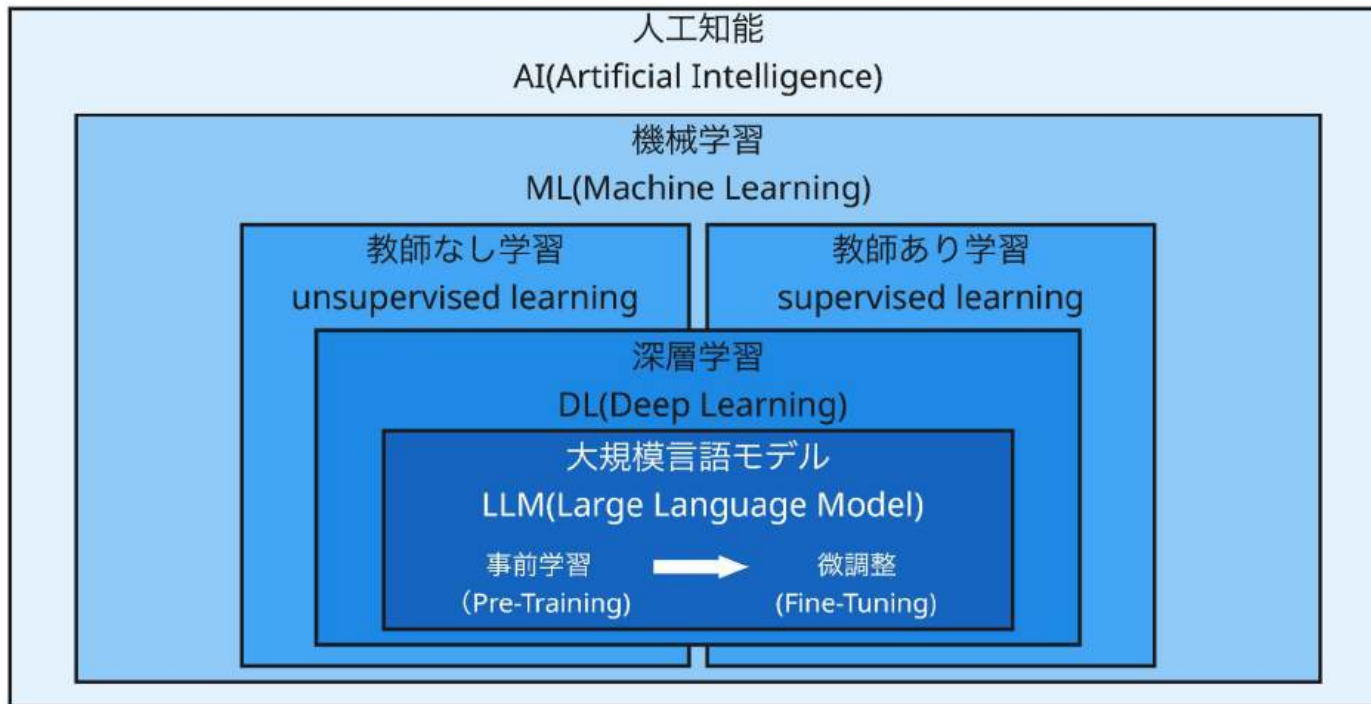
- XだけからYを作る。
- 途中までの文(X)から、次の単語を予測する(Y)という教師あり学習を行う。事前学習と言う。
- 事前学習をしておくことで、次に与えられるタスク (ダウンストリームタスク) で、少しの例を与えるだけで学習することができる。



Transformerの構造

参照元: 経済産業省 デジタル時代の人材政策に関する検討会 第8回 デジタル時代の人材政策に関する検討会 資料5 生成AIの影響と人材育成(東京大学大学院工学系研究科 松尾 豊教授)

AI ⊃ ML ⊃ DL ⊃ LLM



機械学習 / ニューラルネットワークの概念

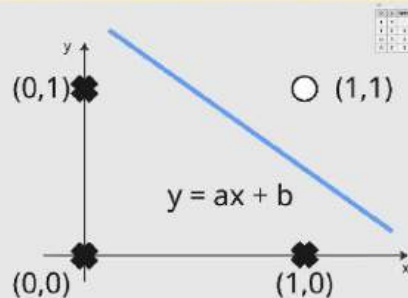
参考文献：堀内、他、「はっきりわかるデータサイエンスと機械学習」、近代科学社、2020

■ は ○ ですか？ ❁ ですか？



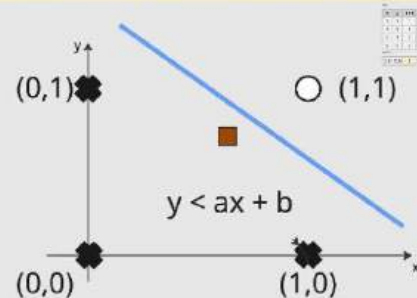
■ がどっちの図形かを予測する問題を考えます

座標を入れて、線を引きます



直線を引くことが「学習」です
式（モデル）のa,bの値が決まります

■ は ❁ と予測される？



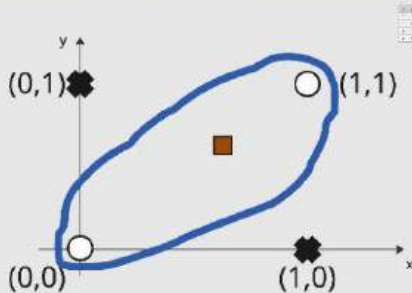
学習された式を使って予測します
これは線形モデルの例です

■ は ○ ですか？ ❁ ですか？



直線を引けない場合はどうしましょうか？

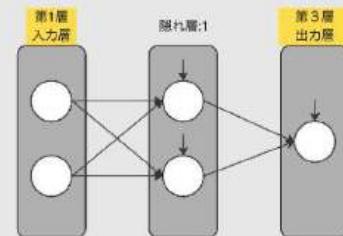
境界線を引きます



ニューラルネットワークは複雑な境界線を描くことができるイメージです

ニューラルネットワークのイメージ

隠れ層1, ユニット数=2の3層構造の例



多階層にしたものがDeep Neural Networkであり、深層学習の一つです。

実験

キーとなる技術
Transformer

🔄めくる

大規模言語モデル
はディープラーニ
ングの一種

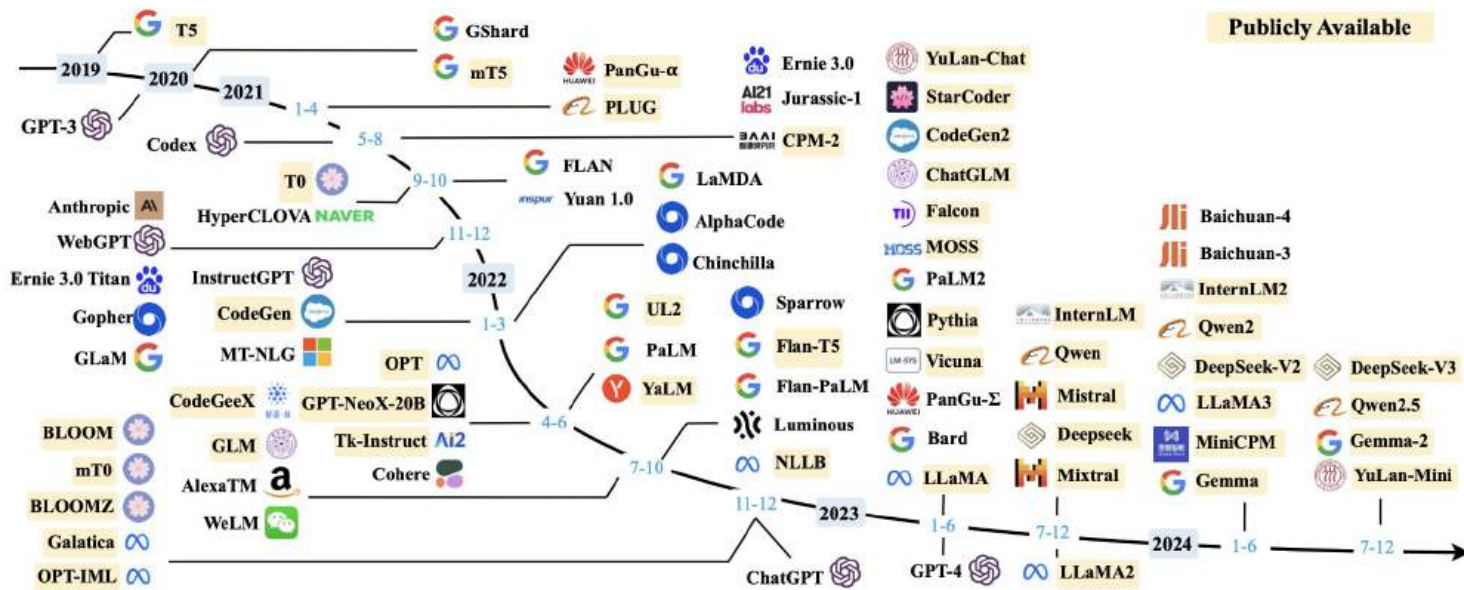
🔄めくる

ニューラルネット
ワークは線形分離
可能でない問題も
解いてくれる

🔄めくる

大規模言語モデルの開発の変遷

文章・コード生成の領域では、大規模言語モデル(LLM)の開発が世界中で今も盛んに行われており、各社・各団体しのぎを削っている



引用:<https://arxiv.org/pdf/2303.18223>

他、GPT-4o、Claude3、Gemini1.5、Azure Open AI、Amazon Bedrock など現在も進化中

自然言語処理の進歩の歴史

- 2017 Googleの研究者らがTransformerを提案
- 2018 GoogleがBERT (Bidirectional Encoder Representations from Transformers) を発表。
「Transformer」アーキテクチャを基盤に構築された自然言語処理モデル。
OpenAIが生成的事前学習トランスフォーマー(Generative Pre-trained Transformer)、通称GPT、を発表。
自然言語処理における大規模言語モデルの先駆けとなったと言われている。
- 2019 Google検索エンジンにBERTが採用され、検索結果の精度向上に寄与したと言われている。
- 2022 11月：ChatGPTが一般公開される。OpenAIによって開発されたこのAIチャットボットは、リリース直後からその高度な会話能力と幅広い知識で世界中の注目を集めたと言われている。
- 2023 Googleが対話型AI「Bard」を発表（現在のGemini）。
各社が多様なLLMを発表。OpenAI/GPT-4, Google/PaLM2, Meta/Llama
- 2025 OpenAI/GPT-5, Anthropic/Claude Sonnet 4, Google/Gemini 2.5 Pro, Llama-3.3-Swallow-70B-v0.4, DeepSeek

Transformerを使ったLLMの登場により、インターネットの世界では対話型AIが当たり前になりました。これまでは不可能だった専門的な業務を代行できるツールが多く誕生すると言われている。

ChatGPTとAPIの違い

Neuron ESの生成AI連携やChat EIで利用するのはLLMの「API」です。

ChatGPTの利用

Webアプリ



OpenAIが提供する対話型アプリケーション
ユーザーが直接利用できる画面を持っています

APIの利用

python

```
1 from openai import AzureOpenAI
2
3 client = AzureOpenAI(
4     azure_endpoint = endpoint,
5     api_key=api_key,
6     api_version=version
7 )
8
9 response = client.chat.completions.create(
10     model=model_id,
11     max_tokens=max_tokens,
12     messages=[
13         {"role": "system", "content": system_prompt},
14         {"role": "user", "content": prompt}
15     ]
16 )
17
18 print(f"質問: {prompt}")
19 print(f"回答: {response.choices[0].message.content}")
```

LLMのAPIは、開発者向けのプログラミングインターフェース
LLMの機能を他のアプリケーションやサービスに統合することが
できます

LLMのAPIの作り方

- 1 生成AIのサービスを決めます。
- 2 LLMのモデルを決めます。
- 3 モデルをデプロイします。
- 4 キーとエンドポイントを確認。

例

Azure OpenAI Service

gpt-4o

Japan East、Standard、など

APIキー

エンドポイント

<https://xxxxxxxxx.openai.azure.com/>

オンプレLLMの選択肢について

株式会社リコー様の例

News Release RICOH
2024年3月8日

RICOH、モデルマージによって GPT-4 と同等の高性能な日本語 LLM を開発 | ヲノマトテを強化 | 国産最先端のAIシステム構築でAIワークロードを大幅に削減

株式会社リコーは、生成AIの開発強化とAIワークロード削減を目的として、独自の生成AIモデル「GENI AC」を開発しました。このモデルは、GPT-4 と同等の高性能な日本語 LLM を実現し、企業業務の効率化とコスト削減に貢献します。

項目	GENI AC		GPT-4	
	日本語	英語	日本語	英語
単語生成	1.00	1.00	1.00	1.00
文脈生成	1.00	1.00	1.00	1.00
対話生成	1.00	1.00	1.00	1.00
要約生成	1.00	1.00	1.00	1.00
翻訳生成	1.00	1.00	1.00	1.00

お問い合わせ先: 株式会社リコー 総務部 広報課
TEL: 03-3541-3111 FAX: 03-3541-3112
Eメール: pr@rieco.com

[リンク](#)

[リンク](#)

[リンク](#)

genai.com
リコー、モデルマージによって GPT-4 と同等の高性能な日本語 LLM (700 億パラメータ) を開発 | リコーグループ企業・IR | リコー | リコー公式サイト | 株式会社リコー | Platform 提供の「Llama 3.70B」が日本市場で向上させた「Llama 3.70B」をベースとした、独自の「GENI AC」を開発し、国産の最先端モデルからベストな出力した Chat Vector とリコー製の Chat...

genai.com
リコー、国産生成AI開発強化プロジェクト「GENI AC」第3期においてリーディング性能を持つマルチモーダルLLMの開発開始 | リコーグループ企業・IR | リコー | 株式会社リコー、経済産業省と連携して国産生成AIモデル「GENI AC」を開発 | 国産最先端のAIシステム構築でAIワークロードを大幅に削減 | 国産最先端のAIシステム構築でAIワークロードを大幅に削減

promis.digital
リコーのAltihaテクノロジとノウハウで新たな働き方を選ぶ現場に寄り添う | リコー | リコーのAIサービスの、高度な柔軟性、カスタマイズの高精度、使いやすさ、導入への配慮という、西の方大な相違から、企業のデジタルトランスフォーメーションを支援しています。

ハードウェア価格の参考例

[リンク](#)

生成AI基盤キャンペーン リターンズ
本キャンペーンでは生成AIやディープラーニング用途に最適な PC サーバ PRIMERGY と NVIDIA GPU をセットとした構成を特別価格でご提供

国産クラウドの利用の場合

GPUサーバーといえば さくらインターネットの「高火力」

[リンク](#)



さくらインターネット、「NVIDIA H100 53M 80GB」を搭載した生成AI向けクラウドサービス「高火力」の第3弾「高火力VRX」を2025年春より提供

[リンク](#)



国産GPUクラウドサービス「高火力」を強化 | さくらインターネット | さくらインターネットは、AIワークロード向けのGPUクラウドサービスを提供

[リンク](#)



さくらインターネット | さくらインターネットは、AIワークロード向けのGPUクラウドサービスを提供 | さくらインターネットは、AIワークロード向けのGPUクラウドサービスを提供

LLMのコストの考察

クラウドサービス利用の場合

- ・ 月額数千円から始められる
- ・ 使い過ぎると月額数十万円
- ・ 見えないコスト
 - ・ 回線利用料
 - ・ セキュリティリスク

オンプレLLM利用の場合

- ・ GPUサーバー：~1200万円 (国内クラウド：月額~40万円)
- ・ 見えないコスト
 - ・ 運用費 (H/W, SW)
 - ・ モデルの精度

LLMのモデルのまとめ

LLMのAPIを利用する
ためには

🔄めくる

APIの利用に必要な
情報

🔄めくる

LLMの選び方

🔄めくる

セキュリティ

入力内容の 情報漏洩リスク



入力した内容が生成AIのサービス提供企業のモデルの学習に利用され、情報漏洩に繋がるリスク

【例】個人情報、取引先情報、社外秘の機密情報

【対策】セキュリティを担保する自社専用環境を構築し、業務利用をその環境のみに限定する

コンプライアンス

AI生成物の 二次利用リスク



生成AIが回答した内容を盲目的に再利用することで生じる法的・倫理上のリスク

【例】不正確・誤認された内容の流用、著作権の侵害、バイアスや偏見、差別的・反体制的な内容の流用

【対策】ガイドライン策定、説明会、通報・社内報、システム上での注記喚起など、啓蒙を繰り返し実施

ハルシネーション

AIが誤った情報を 出力するリスク



LLMは確率的に次の言葉を予測して文章を生成するため本質的に知識を持たず、事実とは異なる情報を生成するリスク

【例】[生成AIの“でたらめ回答”でエア・カナダが敗訴](#)

【対策】目的に合わせた高品質なモデル選択、RAG(検索拡張生成)活用、開発・運用時のテスト、リスク検知機能やモニタリング環境(ガードレール)構築

生成AI(LLM)は社内情報を学習していないので
AIが社内ドキュメントや各業務システム内の情報を参照し、回答する仕組みを構築する必要がある

情報漏洩の対策

生成AIに入力した内容がモデルの学習に利用されない生成AIのサービスを利用する

Azure OpenAI Serviceの場合

[Azure OpenAI サービスのデータ、プライバシー、セキュリティ](#)

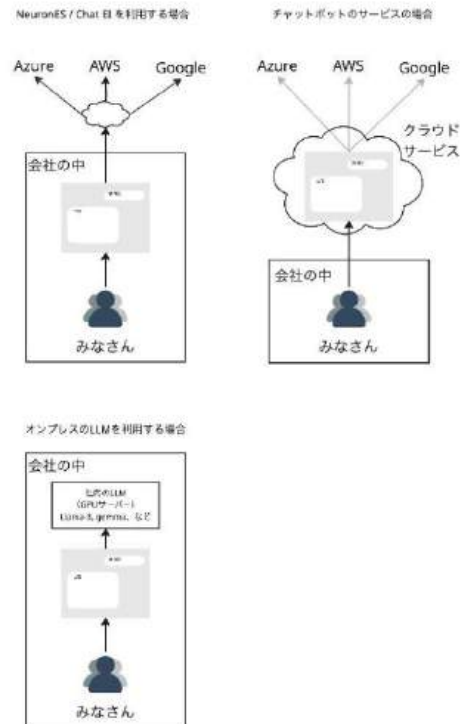
[Azure OpenAI サービスの制限付きアクセス](#)

Amazon Bedrockの場合

[Amazon Bedrockのよくある質問 - セキュリティ](#)

Google Cloud Vertex AIの場合

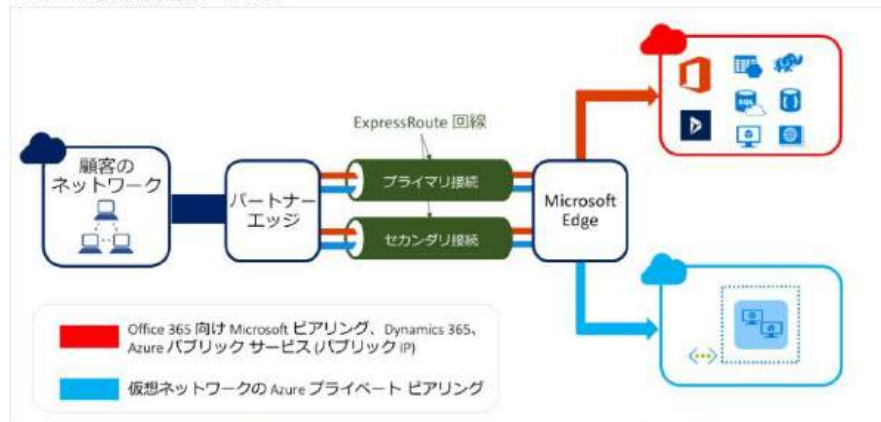
[生成AIとデータガバナンス](#)



セキュリティを担保した自社専用環境の構築

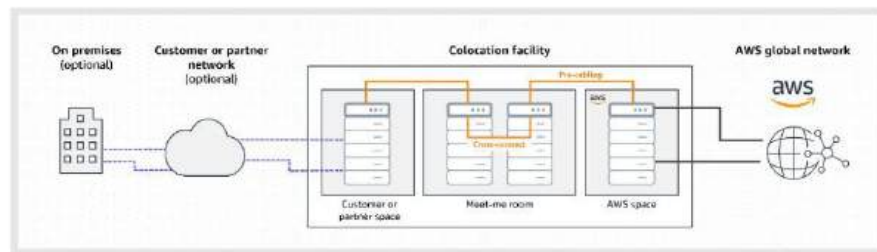
生成AIのサービスを提供するクラウドサービス各社の専用線接続のサービス、もしくは、VPN接続のサービスを利用します。

Azureを専用線接続する場合



参照元:<https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure/expressroute/expressroute-introduction>

AWSを専用線接続する場合



参照元:<https://aws.amazon.com/jp/ip/directconnect/getting-started/?nc=sn&loc=4&dn=1>

用語集

本資料では、生成AIのサービスを提供するクラウドサービス各社の専用線接続のサービス、もしくは、VPN接続のサービスを利用します。

1. 専用線接続
専用線接続は、インターネットを経由せずに、お客様とクラウドサービスプロバイダーの間で専用線が構築されることを指します。専用線接続は、インターネットを経由せずに、お客様とクラウドサービスプロバイダーの間で専用線が構築されることを指します。

2. 仮想ネットワーク
仮想ネットワークは、物理的なネットワークを抽象化したものであり、クラウドサービスプロバイダー上で実行されます。仮想ネットワークは、物理的なネットワークを抽象化したものであり、クラウドサービスプロバイダー上で実行されます。

専用線接続は、生成AIのサービスを提供するクラウドサービス各社の専用線接続のサービス、もしくは、VPN接続のサービスを利用します。

専用線接続は、インターネットを経由せずに、お客様とクラウドサービスプロバイダーの間で専用線が構築されることを指します。専用線接続は、インターネットを経由せずに、お客様とクラウドサービスプロバイダーの間で専用線が構築されることを指します。

ハルシネーションについて

LLMのモデルのカットオフ

LLMのモデルが学習したデータの最終的な期限を指します。

この期限以降の情報はモデルに含まれておらず、それ以降の出来事や知識については正確な回答ができない場合があります。

以下は、OpenAI社のGPTモデルのカットオフ日をOpenAI社のModelsのページで確認した内容。

- GPT-3.5: Sep 01, 2021
- GPT-4: Dec 01, 2023
- GPT-4 Turbo: Dec 01, 2023
- GPT-4o: Oct 01, 2023
- GPT-o4-mini: Jun 01, 2024
- GPT-4.1-mini: Jun 01, 2024

実験

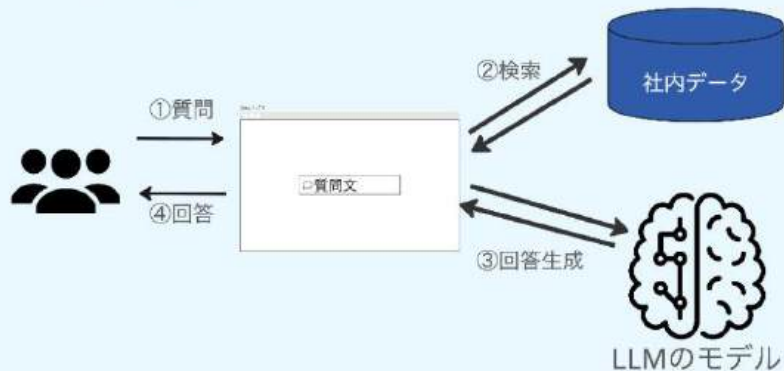
カットオフ以降の情報を求めると、不正確な回答やハルシネーションが発生する可能性があります。そもそもモデルが学習していない企業内の情報は、誤って回答する可能性があります。

ハルシネーションの対策

LLMに外部データを取り込むには、RAGとFine Tuningの2つの方法があります

RAG

外部データベースから関連情報を検索（Retrieval）し、その情報を基にLLMが回答を生成（Generation）するフレームワークです。これにより、モデルが学習していない社内データを活用できます。

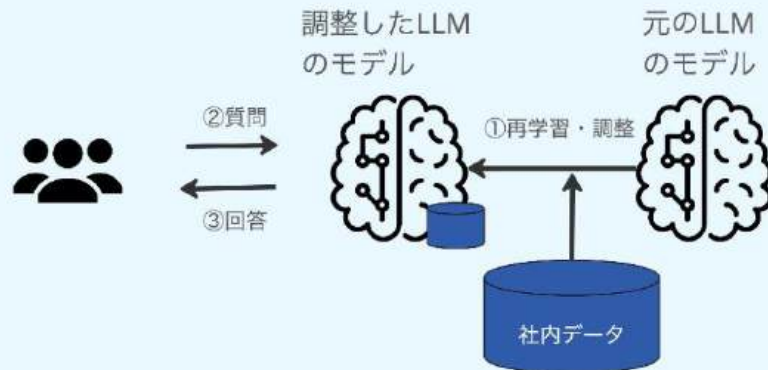


- ✔ LLMが学習していない情報も利用可能です。
- ✔ 外部データを参照するため、回答の正確性が高まります。
- ✔ 特定のタスクや質問に応じたカスタマイズが可能です。

社内データを利用するために多くの企業で活用されている手法

Fine Tuning

既存のLLMを社内のデータセットに合わせて再学習させるプロセスです。これにより、モデルを社内のデータで再学習します。



- ✔ 学習用のデータセットを用意し、モデルの再学習をする。
- ✔ 特定のニーズやタスクに合わせたモデルを作成できる。
- ✔ 新しい情報への対応力は低い。

GoogleのMedLM：医療業界向けに微調整された基盤モデルファミリー

リスク対策のまとめ

セキュリティ対策

🔄めくる

ハルシネーション
対策

🔄めくる

リスク検知機能や
モニタリング環境
(ガードレール)

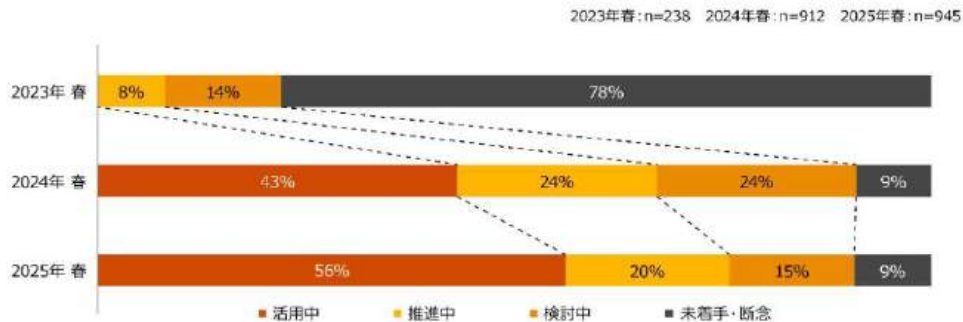
🔄めくる

市場調査データ

- ・ PwCコンサルティング「生成AIに関する実態調査2025春」
- ・ 帝国データバンク「生成AIの活用状況調査」（2024年8月1日）
- ・ 生成AIの公開事例：独自調査

企業における生成AIの活用状況 - 推進度合い

自社の生成AI活用の推進度合い



Q あなたが働く会社における、社内向けまたは社外向けの生成AI活用検討の推進度合いとして、最も当てはまるものをお答えください。

- ※ 2023年春の選択肢の「予算化済み」を「生成AI活用に向けた具体的な案件を推進中」に統合し再集計。「社外向けの生成AI活用サービスを提供している」と「社外向けには提供していないが、社内業務等で生成AIを活用している」の選択肢がなかったため、無表記
- ※ 2023年春の調査結果から今回調査対象と同様の属性に絞って再集計
- ※ 整数となるように小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります（以下のグラフ全て同様）



生成AIに関する実態調査
2025春5カ国比較
一進まない変革グローバル
比較から読み解く日本
企業の活路

<https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/thoughtleadership/generative-ai-survey2025.html>

- PwCコンサルティング合同会社の「生成AIに関する実態調査2025春5カ国比較」（2025-06-23）
- 売上高500億円以上の企業に勤務する課長以上の方々を対象に実施。
- 日本国内の状況を見ると、生成AI活用の推進度が伸び、「社内で生成AIを活用中」または「社外に生成AIサービスを提供中」と回答した層は前回調査から+13ptの56%となり、過半数を超えました。

企業における生成AIの活用状況 - 推進度の特徴的な業界層

2025年 春: n=945

順位	2025年 春	概要	生成AIの活用傾向	主なユースケース
1	テクノロジー	パイオニア	<ul style="list-style-type: none"> 前年から生成AIをリードし、引き続き推進度が高い 新サービス提供などの新たなユースケースの導入傾向も見られる 	<ul style="list-style-type: none"> 新サービス提供 (テクノロジー、通信) プログラム コード生成 (テクノロジー)
2	サービス/接客業			
3	通信			
4	運輸/物流	躍進	<ul style="list-style-type: none"> 人材不足が深刻化して少人数化が必須であり、推進度が急激に増加 	<ul style="list-style-type: none"> 動画生成 (小売、サービス/接客) カスタマーサービス自動化 (運輸/物流、小売)
5	小売			
6	重工業/産業機械/家電			
7	公益事業/エネルギー	安定成長	<ul style="list-style-type: none"> 業務の標準化が進んでいる製造業で、前年に引き続き堅調に推進度が増加 	<ul style="list-style-type: none"> データ収集や企画アイデアなど、社内業務の効率化を中心とした活用が進んでいると推察
8	自動車			
9	銀行/証券/保険/その他金融サービス			
10	化学	試行錯誤	<ul style="list-style-type: none"> 法規制が厳しく、または業務の標準化が遅く、推進に慎重 	<ul style="list-style-type: none"> 文章執筆、資料作成 (建設/エンジニアリング、銀行/証券/保険/その他金融) データ収集・リサーチ (銀行/証券/保険/その他金融)
11	ヘルスケア/病院/医療/医療機器			
12	消費財/飲料/食品			
13	建設/エンジニアリング			
14	不動産			
15	商社			

「生成AI活用の推進度」で順位付けを行い、業界ごとの順位の変動を比較し、以下の4つの業界層をグルーピングしました。

レポートの内容を元に、講師作成

パイオニア層	いわゆる、IT業界	プログラム開発のコード生成
躍進層	飲食、物流、小売	社内利用よりお客様向けサービスでの利用
安定成長層	製造業	社内業務効率化
試行錯誤層	金融業界、医薬品/医療機器、建設/エンジニアリング、不動産	法規制が厳しい = ハルシネーションが起きるものは使えない



www.pwc.com

生成AIに関する実態調査
2025年 5カ国比較
一進まない変革グローバル比較から読み取る日本企業の活路

本調査では日本における生成AIの導入とその効果の実態を明らかにする上にとり、英語・韓国・ドイツ・中国との比較を通じて、日本企業の強みと課題を分析します。また、業界を上げていく企業に期待する実践的洞察を抽出し、日本企業が変革を遂げるための具体的なアクションを示します。

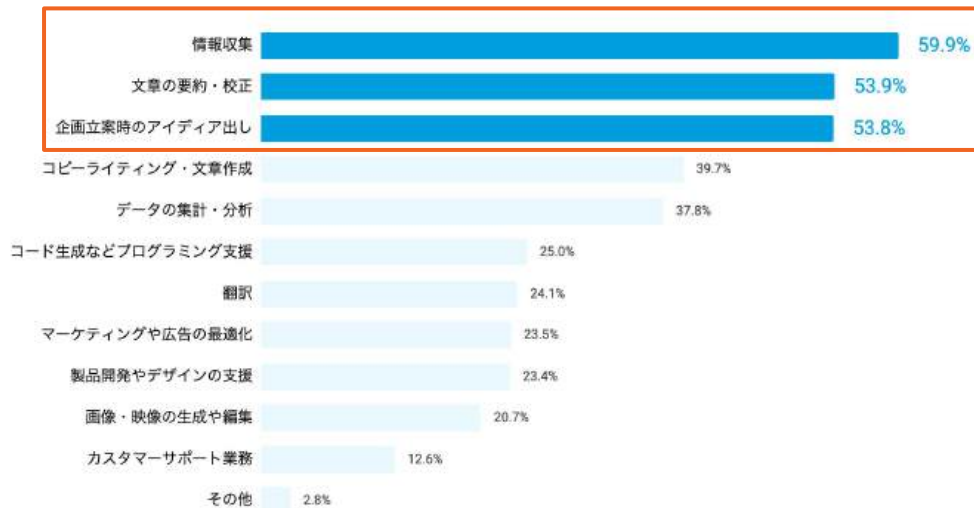
<https://www.pwc.com/jp/ia/knowledge/thoughtleadership/generative-ai-survey2025.html>

Q あなたが働く会社における、社内向けまたは社外向けの生成AI活用検討の推進度合いとして、最も当てはまるものをお答えください。

Q 生成AIを「既に活用している」「具体的な案件を推進中」「検討中」を選択した方にお伺いします。現在検討されている（あるいは既に実現できている）生成AIのユースケースとして、当てはまるものをお答えください。

※ 選択肢の「社外向けの生成AI活用サービスを提供している」「社外向けには提供していないが、社内業務等で生成AIを活用している」「生成AI活用に向けた具体的な案件を推進中」を合算した集計結果を元に順位付け

生成AI活用の用途



- 帝国データバンクの調査によると、企業における生成AIの活用用途のうち「情報収集」(59.9%)が約6割で最も高く、以下、「文章の要約・校正」(53.9%)、「企画立案時のアイデア出し」(53.8%)が上位に並んだ。
- ビジネスパーソンが日常的に行う業務であり、プロンプトが比較的容易なため、取り組みやすいことが要因であると考えられる。

出典: 株式会社帝国データバンク「生成AIの活用状況調査」(2024年8月1日)
<https://www.tdb.co.jp/resource/files/assets/d4b8e8ee91d1489c9a2abd23a4bb5219/ed8435fc5bfc428c807c0568f5ecf53a/p240802.pdf>

「社内稟議規程の一部でRAGを活用。社内稟議についてわからない人が質問したらうまく答えられるようにした。しかし、実際に試してみると、正答率は上がりきらなかった。そこで回答精度を上げる取り組みを行ったところ、正答率は50%にまで改善。」

Nissan AI-Chat: RAG回答精度

NISSAN DIGITAL
NEXT

- 「照会応答タイプ」(問いに対して明確な答えを持ってくるケース)は一般的にRAGが適していると言われていたが、現時点では想定ほどの回答精度が出ておらず試行錯誤を繰り返している

ユーザー評価結果(全テストケース78件)

チャンクサイズ:500, オーバラップサイズ:200,
検索文書数:5, 検索アルゴリズム:ハイブリッド



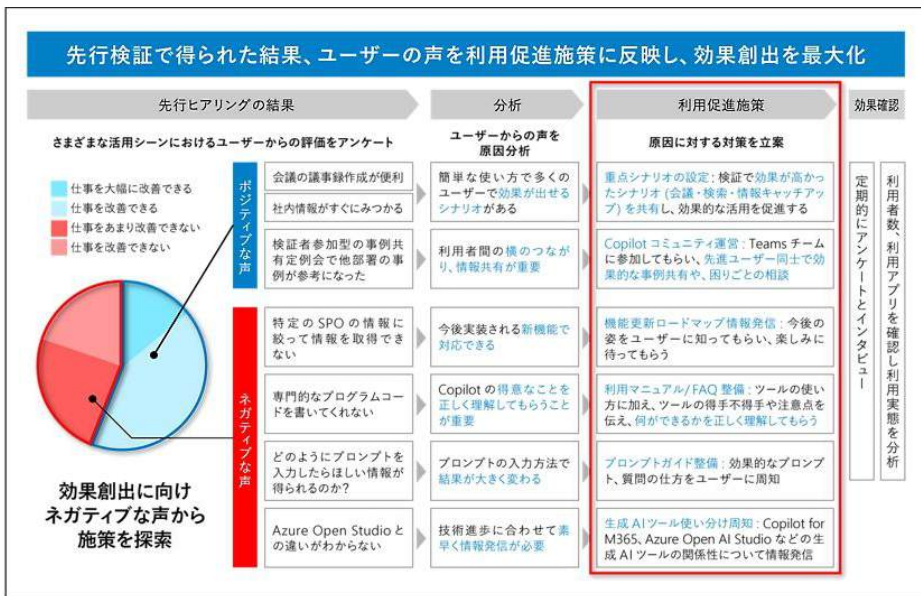
チューニング後の評価

チャンクサイズ:2000, オーバラップサイズ:500,
検索文書数:5, 検索アルゴリズム:ハイブリッド



NISSAN
MOTOR CORPORATION

参照元:「日産自動車」
版ChatGPTの知ら
れざる中身、担当者が
語る「RAG活用も始
めた」最新動向



デンソーは、先行利用の段階から定量的効果と定性的効果を測定し施策に生かしている。

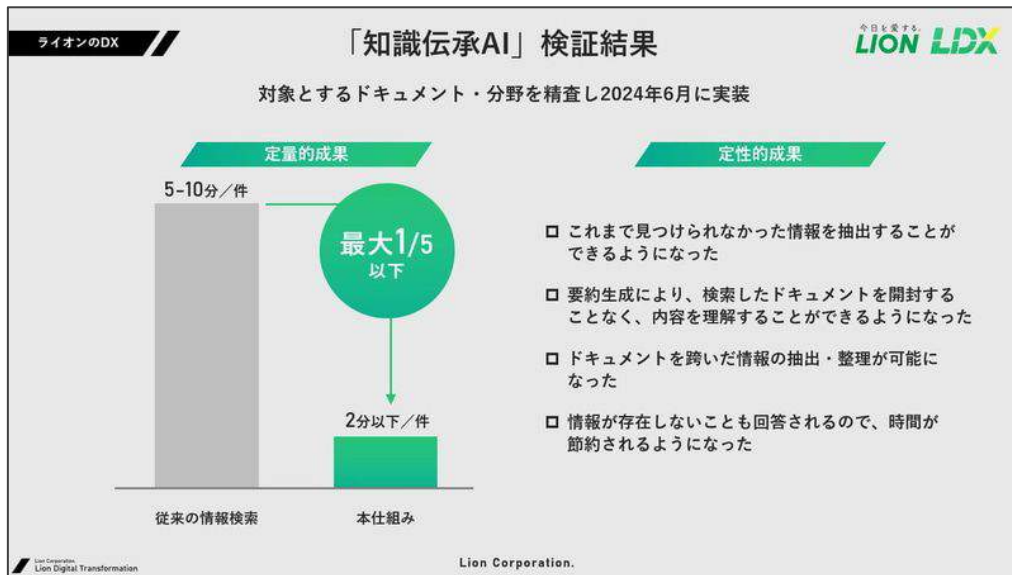
2023年10月に第1ステップとして300人という規模で Microsoft 365 Copilotの先行利用を実施。

この先行利用により、汎用業務においてひとりあたり月12時間という一定の時間削減を確認できたことから、2024年4月に第2ステップとして検証対象を拡大。

第2ステップで利用対象を 6,000人に増加。成果を確認し 3カ月後の 2024年 7月に第3ステップとして本社30,000人への本格導入が決断されました。

参照元: デンソー、Microsoft 365 Copilot 導入で社員の余力創出と品質向上を実現

「R&D部門では、まずデータにおいて、実験データ、報告書・論文などの業務データ、実験機器からのデータなどが散在してしまっているという課題があった。また、専門人材からの知識伝承として、人の頭にしか存在しない情報を抽出してデジタルデータにする必要性があり、さらには、異動でナレッジが薄まってしまう点も課題だったという。こうした課題を解決するための取り組みの1つが、社内の研究開発文書を生成AIで検索できるようにする「知識伝承AI」で、情報を検索して活用する時間が1/5以下になった」



生成AIの技術動向

🔄めくる

LLMのモデルとAPI

🔄めくる

LLMの利用の際に
対策すべきリスク

🔄めくる

生成AIの活用状況

🔄めくる

次のステップ

社内で生成AIを利用できる環境について確認してみましょう。

不明な点はブレインズテクノロジーに確認してみましょう。

弊社製品にご興味を持っていただけましたら

弊社営業にご連絡

はじめての生成AI
Level 200のセミナー参加

「はじめてのエンタープライズ
サーチ Level 100」へ



ブレインズテクノロジー株式会社

【お問い合わせ先】

いつでもご連絡ください！

NeuronES事業開発室

柳澤 政夫

〒108-0074 東京都港区高輪3-23-17 品川センタービルディング4F

yanagisawa.masao@brains-tech.co.jp

電話: 080-7964-5553

